

平成30年度 地域連携活動報告書

| | | | |
|-------|--|------|------------------------|
| 連携先名称 | 福島県鮫川村 | 担当教員 | 地域創成科学科 入江 彰昭 |
| 活動状況 | 継続中 | 関連教員 | 上地由朗・館 博・穂坂賢・栗田和弥・入江満美 |
| 協定締結日 | 2010年6月30日 | 活動資金 | 補助金・研究室予算 |
| 活動内容 | <p>全国の中山間地域の約6割は過疎地域であるという現状と同様に、里山の原風景を残した鮫川村でも、農業経営者の高齢化・後継者不足が進み、耕作放棄地や荒れた山林が増え、里山景観が荒廃するという環境問題が加速している。さらには農業や自然環境との関わりの深い年中行事や生活文化が失われつつあることも大きな問題である。こうした状況の中で村と交流のあった地元住民と都市住民および農大（教員、学生）が中心になり、里山景観を保全、創造し、このことから地域の活性化を図ることを目的に、平成12年度より里山景観保全活動がはじまった。</p> <p>一方、平成12年から4年間、短期大学部生活科学研究プロジェクト研究「多機能的効果論から見た“田んぼ（谷戸田）”の価値を探る」をテーマに主として鮫川村を対象に研究を進め、現在もその際にプロジェクト研究メンバーが研究フィールドとして活用している。</p> | | |
| 活動成果 | <p>平成12年から4年間、短期大学部生活科学研究プロジェクト研究「多機能的効果論から見た“田んぼ（谷戸田）”の価値を探る」をテーマに主として鮫川村を対象に研究を進めてきた。その成果を取りまとめ、本として出版した。「里山の自然とくらし 福島県鮫川村 東京農大出版会」</p> <p>鮫川村での各教員の研究成果は、学術雑誌、関連学会誌に多数の掲載がある。</p> <p>1.調査・研究 里山のバイオマス資源を活かした実学研究と地域づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農産物資源を地域内循環させるしくみを構築する 「手まめ館」 2. 林産物資源を地域内循環させるしくみを構築する 「バイオマスセンター」 3. 地域特産品開発のための研究 4. 資源循環型農業推進に向けた研究 <p>これら1-4の研究成果により里山での持続可能な循環型農業を地域デザインし応用する。</p> <p>2.学生教育 （実習・研修等）持続可能な農業と里山景観保全に向けた実学教育プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 里山景観保全活動において農家の知恵や経験に学ぶ実学教育 年6回 2. 里山景観公園（館山公園）づくりにおける実践フィールド教育 年1回 夏季集中 3. 農産物加工技術の習得のための農家インターンシップ研修 年1回 2週間 <p>実学教育プログラムの目的：「人物を地域へ還す」</p> <p>地域との連携によって地域デザインのできる人的能力開発</p> <p>3.商品開発 "大豆を中心とした豆製品。味噌、醤油、納豆、きなこなど。鮫川村産キクイモを使った焼酎乙類「満天の空」</p> <p>かぼちゃ(土手かぼちゃ)を活用したかぼちゃ焼酎の開発"</p> <p>4.技術提供・支援 "林産物資源を地域内循環させるしくみを構築する 「バイオマスセンター」 開設に向けた技術提供。</p> <p>村中心部の館山公園の整備計画、管理計画づくりの支援。</p> | | |